

大山隠岐国立公園大山蒜山地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想①

地域の強み

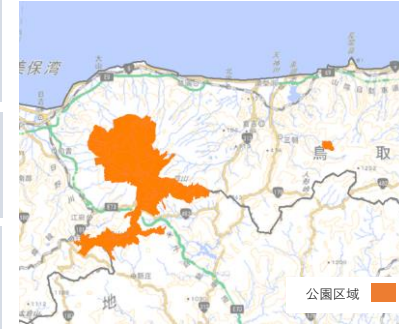
山岳信仰や自然の利活用など、人々の営みによって守られてきた豊かな自然環境や歴史文化とそれらを維持し拡大していく仕組みがあること

地域の課題

地域内の様々な資源を地域における一連の魅力・体験へ落とし込む取組や体験の磨き上げが不足しており、地域一体での周遊がなされない

目指す姿

人々の営みによって守られてきた豊かな自然環境やその背景にある多様な歴史文化を、一つのストーリーのもとに場所や時期によって変化する様々な体験価値に落とし込み、来訪者の地域内の周遊を実現する



【大山隠岐国立公園大山蒜山地域 区域図】

ストーリー

人々の営みの歴史が刻まれた山々が自然・文化・生活を育む

Story 人々の営みの歴史が刻まれた山々が自然・文化・生活を育む



先端モデル事業の対象とする利用拠点

集中的に魅力向上に取り組む利用拠点に 大山寺地区を選定

◎ 大山寺地区を中心に、地域の関係者等と連携して下記の取組を進め、滞在体験の魅力向上を図る

- ・ 利用拠点マスタープラン等の策定
- ・ 地域協働実施体制の構築
- ・ 自然体験アクティビティとの連携
- ・ 国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設の確保
- ・ 保護と利用の好循環の仕組みづくり



【大山寺地区】

大山隠岐国立公園大山蒜山地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想②

利用拠点における拠点整備の方向性

既存の宿泊施設や空き施設を活用し、地域の魅力を体現した宿にしていすることで、宿を起点に訪問者が地域を周遊しながら地域ならではの価値を体感できる拠点づくりを進める

< 拠点整備のポイント >

● 外へ出てもらう仕組みの創出

宿泊施設や飲食、体験拠点を分散させることにより、滞在者の地域での周遊を促す

● 地域全体で滞在に必要な機能を補完

地域ならではの食を提供する飲食店や文化体験・自然体験コンテンツを地域の事業者各々が展開することにより、宿泊施設と機能補完を行う

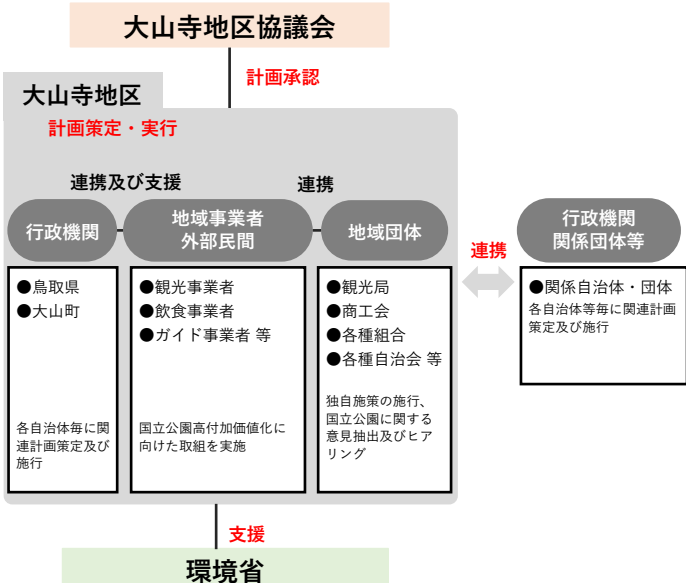
● 地域全体での提供価値の統一

街並み整備やアクティビティ等も含めて、地域で発信するストーリー・メッセージにて統一された世界観を創出し、滞在者へ大山寺地区ならではの自然・歴史・文化における価値を必ず訴求する

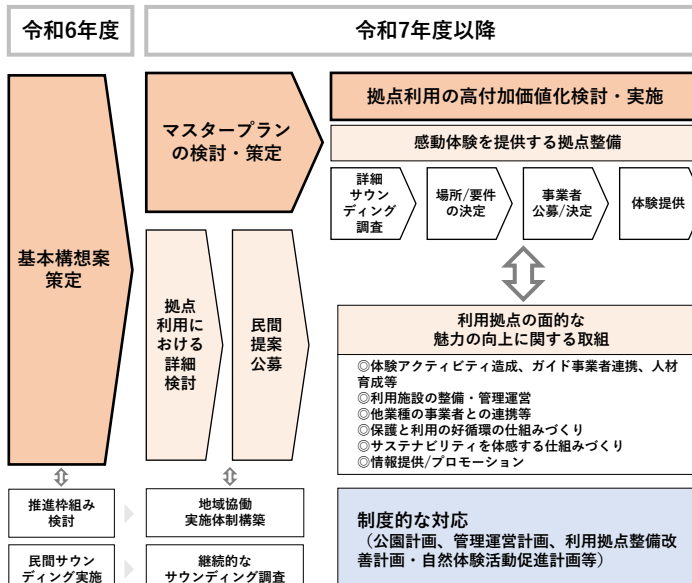


【拠点整備のイメージ】

事業化に向けた推進体制のあり方



今後の主なロードマップ



今後の具体的な展開イメージ

令和7年度以降の大山蒜山地域における具体的な利用の高付加価値化の可能性について、以下の3ステップを例示。

- 【STEP 1】**
大山寺地区ならではの魅力を体現した、感動体験を提供する **宿泊/滞留施設の整備**
- 【STEP 2】**
大山寺地区における利用の高付加価値化をさらに進め、**周遊を促すためのまちづくり**
- 【STEP 3】**
大山寺地区を中心とした**大山蒜山地域内**の**連携による地域全体の広域周遊促進**